

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 3051 号	氏名	西尾 由美子
審査担当者	主査	名嘉真武國	(印)
	副主査	高須 修	(印)
	副主査	ス下 亨	(印)
主論文題目： Relationship of Tryptase with Hypotension in Anaphylaxis during Anesthesia (麻酔中に発症したアナフィラキシーでのトリプターゼと血圧低下の関連性)			

審査結果の要旨 (意見)

この論文内容とプレゼンテーションから頻度は低いもののやはり全身麻酔下にとって大変重要であり決して見逃してはならない事項と考える。後ろ向きでの検討から血清のトリプターゼおよびヒスタミンはそれぞれ半減期には相違はあるが、補助診断には有用と考える。しかし Real time での判定が困難であることから血圧低下と皮膚症状を含めた臨床症状が主体であることも改めて認識できた。今後の課題として頻度の高い薬剤が判明したことから同薬剤を使用する際には、アナフィラキシー発症を意識して麻酔に備えることと事前に発症に対する検査の確立、さらには Real time での結果が判定できるような好塩基球活性化試験も含めた検査も確立されることを期待する。本研究は今後の新たな検討の発端となる素晴らしい論文である。

論文要旨

アナフィラキシー発症時に出現する循環器症状の1つである血圧低下は、アナフィラキシーの重症度に影響する重要な因子と考えられる。アナフィラキシー発症時の血圧低下の詳細とトリプターゼおよびヒスタミンとの関連性など、麻酔中に発症したアナフィラキシーの特徴を調査した。調査対象とした55,996件中、アナフィラキシーと診断した25症例の最低収縮期血圧を電子麻酔記録から抽出した。アナフィラキシー発症後に測定を行ったトリプターゼおよびヒスタミンの推移を解析した。最低収縮期血圧とトリプターゼ、ヒスタミン、アナフィラキシー重症度との関連性をそれぞれ解析した。アナフィラキシーの原因物質についても調査した。25例の最低収縮期血圧の平均値(±SD)は44.1(±16.3)mmHgだった。トリプターゼおよびヒスタミンは基準値より高かった。最低収縮期血圧が低いほどアナフィラキシー重症度が高く、トリプターゼも高値を示した。原因物質はロクロニウムが最も多く、疑いを含めると25例中11例だった。血圧低下はアナフィラキシー重症度を反映する傾向が見られた。トリプターゼは血圧低下やアナフィラキシーの重症度を判定する補助診断として有用であると考えられた。